

第一中学校

10月6日～10月10日(4泊5日)

○日程表

10月6日(火)		10月7日(水)		10月8日(木)	
7:00	一中校庭集合・出発式	6:00	起床・健康観察・寝具整理	6:00	起床・健康観察・寝具整理
8:00	調布インター	7:00	清掃、朝食	7:00	清掃・お手伝い
11:00	豊科インター	9:00	退館式、出発	8:00	朝食準備・朝食
12:00	国営アルプス安曇野公園到着	10:00	林業体験Ⅰ 枝打ち、 チェーンソー	9:00	民宿ごとのプログラム
12:30	昼食(弁当)	12:00	昼食		昼食
13:00	学級ごと、プログラム ピザづくり、生き物観察、 ネイチャー探検	13:00	林業体験Ⅱ 薪割り		民宿ごとのプログラム
17:00	ホテル着、入館式 入浴、休憩	16:30	民宿入村式 夕食作り(カレーライス)		
19:00	夕食	18:00	夕食 入浴	18:00	夕食、入浴
20:00	レク	20:00	民宿の方との交流	19:00	民宿の方との交流
21:30	就寝準備	21:00	就寝準備	21:30	就寝準備
22:30	就寝	22:00	就寝	22:00	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・「白馬の環境に学ぶ」という総合的な学習の時間のテーマを設定し、実行委員会を中心に、事前学習を実施した。
- ・各教科との連携 国語：白馬の自然を題材に、短歌や俳句の学習をした。民宿農家に、自己紹介カードを作成し事前に送付した。 社会：長野県や白馬村の地域の特色や、白馬村を中心とした産業についての学習をした。
総合：環境学習について、林業・農業と環境とを関連づけた学習を実施した。
- ・セカンドスクール実施二ヶ月前に、民宿農家の代表の方を学校に招き、白馬村の地域や産業の概略について実際の農作業の方法や作業内容の説明を受けた。また、地域の特色、林業について丁寧でわかりやすい説明を受け、セカンドスクールに臨む心構えや興味関心が高まった。

長野県北安曇野郡白馬村

参加人数 男子49名 女子53名
計102名

10月9日（金）		10月10日（土）	
6:00	起床・健康観察・寝具整理	6:00	起床・健康観察・寝具整理
7:00	清掃・お手伝い・出発準備	7:00	清掃・出発準備
8:00	朝食準備・朝食、バス乗車	7:30	朝食
9:00	ジャンプ台見学、八方トレッキング	8:30	
12:00	昼食	9:30	各民宿ごと、農作業体験
13:00	農作業体験 稲刈り		
	夕食		
18:00			
19:00	ミニ発表会	11:30	閉村式、バス乗車
		12:30	スイス村にて昼食
21:00	入浴	13:30	豊科インター
21:30	就寝準備	16:00	調布インター
22:30	就寝	17:00	学校到着・解散式 解散

② 事後の学習内容

・ 民宿農家へのお礼の手紙

生徒一人一人が、お世話になった農家の方々にお礼の手紙を書き、交流会で手渡した。7年目となり、兄弟関係など、経年の利点を感じた。

・ 事後学習の取り組み

五日間の体験の紹介や民家の活動の紹介などを、班毎に模造紙(2枚)にまとめ上げた。さらに、第一中学校の総合的な学習の時間の取り組みとしてのポスターセッションの中で、「環境」をテーマとして「白馬に学び武蔵野市の環境を考える」という取り組みに関連づける。

・ 事後交流会

お世話になった、すべての農家の方々を学校に招待して、「まとめ新聞」の報告会を行い、農家の方からいただいたもち米を使用して、餅つき大会を催した。その中で、生徒がお世話になった農家の方々への感謝の気持ちを表すとともに、セカンドスクール後に成長した姿を披露することができた。また、交流会の運営では保護者の協力も得られ、7年にわたって行われてきた交流会をさらに充実させることができた。

○特色ある活動内容

<農家民宿泊>

民宿泊を3泊連続して実施した。その結果、農家の方々との交流と親睦がより深いものになった。また、農業体験でも農家ごとに「稲刈り」「畑仕事」「さつまいも掘り」など、組み合わせを考え、少人数で取り組めるようにし、作業内容の質と量を充実させた体験を実施することができた。さらに、郷土料理体験においても、「そばクレープ」「そば打ち」「おやき」「おはぎ作り」など、農家ごとに取り組み手順や工夫を凝らしている。

また、「わら細工」体験の様子は、生徒も積極的であった。

各農家にお世話になった生徒の人数が少人数であったため、一人一人の作業内容を質と量で向上させることができたので、生徒にとって大変貴重な体験になったといえる。その一面としては、農家の方々の受け入れが7年目を迎えたこともあり、生徒に対する対応のノウハウができていたことが大きな要因であると思われる。さらに、JA大北をパイプとして学校側と農家の方々との事前打ち合わせを充実させたり、体験活動の様子をこまめに見て回れたりしたことが、例年以上に生徒の体験活動内容の充実につながったと思われる。

<トレッキング>

今年度は、「八方、第一ケルン」へのコースを学級ごとに実施した。各学級、民宿のご主人2名ずつで引率しながらのトレッキングであった。教員は、途中と最後尾から生徒全体のフォローをし、事故防止に努めた。残念ながら、霧とひどい冷え込みによりリフト以降を中止した。

山の風景は見るができなかったが、事前指導を含め「自然を大切に作る心」が育まれたと思われる。

<林業体験>

昨年度に続き生徒一人一人の体験活動における内容の質と量を充実させることができた。実施場所は「中谷郷」という山間で、「下草刈り」「枝打ち」「丸太切り」「チェーンソー体験」「薪割り」の一連の作業である。

この体験活動では、生徒が指導員の方々の丁寧な指導のもと、一人一人に「鎌」や「のこぎり」が配られ、森を守るための「下草刈り」などの作業に関わり充実した活動となった。また、体験活動に汗を流して一生懸命取り組めたおかげで、地域で採れたきのこを利用した「きのこ汁」などの昼食を、より一層おいしく食べることができた。

<白馬村オリンピックジャンプ台>

オリンピックの会場であり、スタート地点の高さにびっくりしたり、リフトに乗りながらすぐ近くを空高くジャンプしている選手を想像したりして、普段体験できない貴重な体験をすることができた。さらに、ノーマルヒルとラージヒルの比較やジャンプ台の資料館を見学してジャンプ台の歴史なども学ぶことができ内容のある見学となった。

○生徒の感想

- ・実行委員の集まりや担当の仕事に一生懸命取り組み、仕事は大変だったが、事後集会の中で、セカンドスクール全体をとおして、「楽しかった」「中学校生活で一番の思い出になると思う」と感想を述べてくれたことで、充実感と達成感を味わうことができた。
- ・農家の方がとても親切で、食事も手作りのおかずが多く、とてもおいしくいただくことができた。
- ・農作業では、コンバインを運転できたり、林業体験ではチェーンソーを操作させてもらったり、実際に自分で運転や操作ができたことが印象に残っている。

○保護者の感想

- ・保護者アンケート(学校評価)において、95%以上の保護者が肯定的に見ていることが捉えられる。セカンドスクールの思い出話で盛り上がったという保護者の感想が多い。

○総合的な学習の時間との関連について

本校の総合的な学習の時間における「環境」を学ぶ上でのステップとして有効な手立てになった。特に、四日目の夜に実施したミニ発表会では、班ごとに様々に工夫した発表が見られ、特に、劇の形式での「方言」は、注目を集めていた。セカンドスクールの本体の中に「発表会」を取り入れることが、生徒たちに「言語力」「発表力」を向上させるとともに、12月のポスターセッションに継続できるものとなると確信できた。

○小学校セカンドスクールとの関連について

- ・小学校での2回のセカンドスクールを経験しているので、宿泊について慣れていると感じる。学習内容の系統性について小中の連携を深めたい。

○次年度に向けての反省・課題

- ・農家の方々の高齢化への対応として、体験活動の実施内容の質・量をどのように維持できるかを考えていく必要がある。
- ・農作業などを含め、宿ごとの生徒の自主的な活動をより踏み込んだ体験活動として農家の方々と検討のうえ、第一中学校らしいものを確立したい。
- ・農家の方々との、事前学習と事後学習(交流会)を、今後も継続して実施したい。



【林業体験実習の様子】

第二中学校

5月26日～5月30日(4泊5日)

○日程表

5月26日(火)		5月27日(水)		5月28日(木)	
7:00	学校集合・出発式				
7:30	出発 所沢ICより関越自動車道 塩沢石打IC下車 浦田へ			8:30	農家とのお別れ式
12:40	体験交流センター着	全日		9:00	「伝統料理体験」4時間
13:30	開校式		「農家体験」		
14:00	「田植え体験」2時間			14:00	「林業体験」2時間
	民泊農家との顔合わせ			16:00	活動終了
16:30	各農家へ移動			16:30	宿舎(千歳)着
17:00				20:00	「体験のまとめ」
	農家泊		農家泊	21:00	班長会・部屋会議
				22:30	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

総合的な学習の時間として

生徒一人一人が松之山について、課題を設定し、それについてインターネット・文献等を使いまとめた。課題は松之山の植生や動物、地形や気候、米作りなどの農業について、過疎化、環境とエコ、農村の食文化など多岐にわたる。農業体験、伝統料理体験、自然観察の時に役立つように努めた。更に、課題を調べる際に出てくる疑問点をまとめ、農家泊でお世話になる農家の方々にインタビューする項目をまとめさせた。

② 事後の学習内容

- ・セカンドスクール研究のまとめ(新聞づくり)

5日間の体験活動で集めた情報(インタビューの内容、パンフレット、写真、レポート、思い出)などをB4レポート用紙にまとめ、新聞を作成した。一斉に掲示し、学年生徒全体で相互評価を行い、優秀作品を選んだ。

- ・農家体験発表会

農家泊の班ごとに、農業体験や農家の方々とふれあいを紙芝居としてまとめ、学年集

新潟県上越市・十日町市

参加人数 男子62名 女子53名
計115名

5月29日(金)		5月30日(土)	
6:30	起床	6:30	起床
8:30	出発 大巖寺高原着 「自然観察ハイキング」3時間 昼食 「自然スケッチ」2時間	8:30	宿舎発
15:30	宿舎着	9:00	森の学校キョロロ見学 「松之山の自然、美人林見学」
19:30	「4日間の発見のまとめ」	12:00	閉校式 松之山発 塩沢石打ICより関越自動車道へ 所沢ICより学校へ
21:00	班長会・部屋会議	15:40	学校着
22:30	就寝	16:00	合同学活後解散

会で発表させた。個人新聞と同様に優秀作品を生徒の相互評価で選び、選ばれた班は保護者会で発表させた。

これは、上記の新聞づくりとともに、「自分の考えをまとめたり、発表できる」という本校重点目標の「ことば力の育成」に関連付けることができ、保護者へ理解を得ることが出来る活動にもなった。

・民泊農家へのお礼状づくり

生徒一人一人がお世話になった農家の方へお礼状を作成した。封筒の宛名書きを含めて、総合的な学習の時間に一斉に書く時間を設けて実施した。

・自然スケッチの完成

ハイキング後に行った自然スケッチを美術の時間に完成させた。作品は越後田舎体験推進協議会に送り、本校担当スタッフに優秀作品の選出を依頼した。

○特色ある活動内容

1、田植え体験

田植えは初めてという生徒がほとんどで、指導員から植え方の説明を聞き、田植えを行った。最初は田んぼの中を歩くのも難しく、裸足で田んぼに入るため、その感触が初体験であることから歓声が上がったが、最後には田んぼ2枚を115人の生徒で約2時間、無事に植え付けることができた。2日目の個々の農業体験でも、各戸の田んぼで田植えを経験した班も多く、経験が生かされた。



【実りの秋が楽しみ】

2、農業体験

本校のセカンドスクールのメイン活動として位置付けている体験である。田植え体験の後、松之山・浦田地区の26戸の農家に分宿し、農家の方々和田舎暮らしを体験した後、その農家の方の指導で農業体験をするプログラムを組んだ。

1日目に続き、田植えを行った班、初めて耕運機を運転し、畑を耕す班、山菜取りに行った班、田んぼの畦の草刈と補強を行った班、ビニールハウス作りをした班など、体験は様々である。更に、おじいちゃん、おばあちゃんとの田舎暮らしは、生徒達にとって心温まる体験であった。3日目、別れを惜しみ涙する生徒もいた。ほとんどの生徒が5日間を通して一番印象に残り、楽しい経験であったと言っている。

3、伝統料理体験



今年度よりはじめての体験である。食文化ということで、事前学習も取り組みやすく、何よりも自分達の手で実際に料理を作り、それを食べるという体験は、生徒も真剣に取り組む。「のっぺと山菜てんぷら」「あんぼ」「押し寿司」「こんにやく」「五目おこわと山菜料理」の各班に別れ、農家の奥様方の指導の下、熱心に取り組むことができた。

【自分で収穫した山菜はおいしい！？】

4、自然スケッチ

これも今年度よりはじめての活動である。大巖寺高原・自然観察ハイキングを終え、昼食のカレーをみんなで楽しく食べた後、それぞれ気に入った高原の風景をスケッチした。計画当初は、落ち着いて取り組むかどうか心配であったが、どの生徒も集中して取り組むことができた。作品は学校に戻り、美術の授業で完成させた。更に、優秀作品を田舎体験協議会へ送り、そこで各賞を選んでもらいき、すばらしい賞状まで作っていただいた。全校朝礼で表彰した。

○生徒の感想

中学校に入学し、2ヶ月を経たずして始まるセカンドスクールであったが、自分達の手で大きな行事をやり遂げた充実感を味わうことができた。実行委員会でも、ルールづくりから始まり、係の仕事に責任を持って取り組んだり、他の班員と協力できた喜びを、あげている生徒が

多かった。他には、食事や入浴など共同生活のなかで、新しい友達ができ、友達の今まで気がつかなかった良い部分を発見できたことなどをあげている生徒がいた。更に、前述したが、松之山の人々との心温まるふれあいに触れている生徒も大変多かった。

「素朴な伝統や自然を大切にしようとする態度」「敬愛の念、勤労の尊さ」「責任・協力」という今年度のセカンドスクールの目的を十分に達成できた。

○保護者の感想

東京ではできない貴重な体験ができた。友だちとの生活の中で互いに高めあうことができた。人とのふれあいの中で子供が成長できた。

○総合的な学習の時間との関連について

本校では事後の学習として、松之山の新聞作り、プレゼンテーションを行った。自分の考えや意見を文章にまとめる力や、分かりやすく発表する力を身につけることができた。また、本校の今年度重点目標である「ことば力の育成」にも関連付け、成果をあげることができた。

○小学校セカンドスクールとの関連について

本校では入学してくる生徒の、小学校セカンドスクールの実施時期が春と秋でずれているため、季節の違いを生かした別の活動を組むことができる。しかし、活動プログラムは、小・中学校双方にとって、教育課程にも関わる重要なものであるだけに、小中連絡協議会等を利用し、積極的に情報交換を進めていく必要がある。

○前年度との変更点

昨年度のセカンドスクールでは、3日目に行った工芸体験は、農村に伝わる工芸を体験できる貴重な時間であったが、内容の難易度が違い、限られた時間では完成できないなどの課題が残った。そこで、今年度は体験活動及び体験施設を見直し、生徒にとって興味関心が高い「農村の伝統料理体験」と変更した。この料理体験は、生徒にとって取り組みやすく、事前学習もやりやすい。また、実際に自分達で作った伝統料理を味わうことで満足度も高いものであった。

4日目に行っていたハイキング後の自然観察を、美術科とも連動させ「自然スケッチ」に変更した。天気にも恵まれ、生徒達は集中してスケッチに取り組むことができた。

○次年度に向けての反省・課題

2泊の農家泊では、農家の方々と余裕を持って触れ合うことができ、充実した体験活動を行うことができた。しかし、受け入れ農家の方々の高齢化が進んでおり、元気な中学生を2日間に渡り指導することの困難さが指摘されている。実際に、朝から夕方遅くまでハードな農作業を体験した班もあれば、午前中だけで午後は自由時間というような班もあった。この点は、田舎体験協議会とも調整を図り、できるかぎり同じ程度の体験ができるようにしたい。また、軽作業しか体験できない農家については、農家とのふれあいを大事にしながら、教員が援助に関わることも今後考えていかななくてはならないだろう。

今年度は26軒の農家に協力を得て農家泊を実施したが、宿泊場所が同じ地区内では納まりきれず、職員の宿泊場所（本部）から離れた農家が数軒あり、管理の面で難しくなった。実際夜間に、具合が悪くなった生徒がおり、土地に不慣れな教員が迎えに行くということがあった。緊急を要する場面での対処の仕方についても課題が残った。

その他の活動は概ね目的を達成でき、生徒にとって、とても有意義な体験であった。

第三中学校

5月15日～5月19日(4泊5日)

○日程表

5月15日(金)		5月16日(土)		5月17日(日)	
7:40	学校集合(校庭)	6:30	起床 洗面・朝食準備	6:30	起床(洗面・朝食準備)
8:00	学校出発(バス)	7:30	朝食	7:30	朝食
	調布インター	8:30	農業体験(3時間)(田植え)宿	8:30	出発準備
	談合坂SA		舎裏の田んぼ	8:40	宿舎前整列出発
	八ヶ岳PA		畑作業(そば種まき)	9:30	バス出発
12:30	春日公園到着			9:40	各クラス見学場所着 見学開始
13:15	昼食(弁当)				“松本城・開智学校・資料館(2時間)”
13:30	上伊那農業高校着	12:00	昼食	11:40	駐車場バス内にて昼食・トイレ休憩
	体験学習(1時間30分)・生産環境科・園芸科学科・生物工学科・緑地工学科	13:30	“そば打ち ジャム作り(3時間)”	13:30	松本城臨時駐車場発
			校歌練習	14:30	エネルギー博物館着(1時間)
15:00	上伊那農業高校発	15:30	校歌コンクール		エネルギー博物館発
	宿舎着	16:00	宿舎着	15:30	山岳博物館見学
16:30	開校式(公民館)	17:00	スタンプ練習(入浴)	16:00	宿舎着 夕食準備～夕食
17:20	夕食準備		夕食準備	17:00	スタンプ練習
18:20	夕食	18:00	夕食	18:00	入浴(班長優先)
19:30	稲作講義(1時間)	19:00	木崎湖にて星座観測	19:00	手紙
20:30	班長会議	20:30	班長会議	20:30	班長会議
21:00	班会議	21:00	班会議	21:00	班会議
21:30	日記・就寝準備	21:30	日記・就寝準備	21:30	日記・就寝準備
22:00	就寝	22:00	就寝	22:00	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・大町市観光協会から観光用ポスターと国土地理院発行の地形図を入手。それらを廊下の壁へ貼り付けて訪問地のイメージを持たせることから始めた。
- ・準備学習としてレポート作成を実施。自らでテーマを設定し、校内PC室や図書室を利用して調べ学習を行なった。

長野県大町市

参加人数 男子59名 女子42名
計101名

5月18日(月)		5月19日(火)	
6:30	起床(洗面・朝食準備)	6:30	起床(洗面・朝食準備)
7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	宿舎発(バス)	8:30	宿の方への挨拶
9:00	籠川の河原着	8:40	宿舎発(バス)
9:40	水質調査・岩石調査・植物調査	9:50	国営アルプスあづみの公園着(3時間)
10:40	*飯ごう炊さん(カレーライス)・かんでん作り *トイレの設置	13:00	国営アルプスあづみの公園発
	籠川の河原発(バス)		八ヶ岳PA(休憩)
13:00	テブコ高瀬川館着		談合坂SA(休憩)
13:15	高瀬川ダム見学		*今後の予定はバスの中で指示
15:30	テブコ高瀬川館発(バス)	17:00	学校着 校庭で閉校式
16:30	入浴		20日(水) 21日(木)は休み
17:30	夕食準備～夕食		
18:30	キャンプファイヤー 神社の境内(1時間30分)		
21:00	班長会議		
21:30	班会議 日記・就寝準備		
22:00	就寝		

② 事後の学習内容

- ・総合学習の時間を使って個人レポートと班新聞を作成し、秋のくぬぎ祭(三中の文化祭)で教室展示を行なった。どの班も、明確な目的意識を持ち、時間をかけることで、クオリティの高い班新聞と個人レポートを作り上げることができた。
- ・言語活動充実の観点から、作文作成の時間も十分にとった。学年通信にその一部を掲載した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、星空学習

- ・理科担当教諭が大型望遠鏡を用意していたものの、あいにくの悪天候で星空学習は中止となった。しかし、雨天であった3日目に訪問したエネルギー博物館にてプラネタリウムを鑑賞した。吸い込まれるような暗さの空に輝く、満天の星に生徒達は感動していた。最終日のキャンプファイヤーの時には上空に星空が見え、星の多さを実感するとともに東京の明るさと比較していた。

2、飯盒炊さんとキャンプファイヤー

- ・4日目に、宿舎からバスで15分程に位置している箆川の河川敷で、飯盒炊さんを実施。今年は、持参した火おこし器で、火をおこすことからチャレンジした。全ての班が失敗なく、カレーライスを調理することができた。
- ・夕食後は、近くの神社境内でキャンプファイヤーを実施。フォークダンス、クラス毎のスタンツに大いに盛り上がりを見せた。

<学習体験活動>

1、農作業体験・田植え体験

- ・第三中学校では11年前より、長野県上伊那農業高等学校に訪問し、班に分かれて体験学習に参加している。コースは、人工種子製作、トマトの品種研究、チェーンソーによる丸太切り、トラクター運転、リンゴ摘花、動物とのふれあい、の6つが設定されている。これらのコース決めは、事前に生徒の希望に沿っている。毎年人気なのが、トラクター運転コースである。トラクター以外にも、田植機や小型のパワーショベルなどの運転体験ができる。生まれてはじめて踏んだアクセルペダル。自動車の運転免許を取得するとき、この感覚を思い出してくれるのではないだろうか。
- ・2日目の午前中、少し肌寒い天候のなかの田植え体験を実施した。クラスごと1列に並び、稲の苗を植えていく。初めは1列植えるのにも相当な時間がかかっていたものの、足の運び方や苗をとるタイミングを自分なりに体得していき、時間内で終えることができた。

2、松本城・旧開智学校・大町山岳博物館・ダム見学

- ・3日目は雨天の日程に急遽変更となり、松本城（松本城博物館）・旧開智学校、エネルギー博物館そして大町山岳博物館へ訪問した。松本城へは宿舎からバスで50分ほど。クラス毎に訪問順番を決めて、担任教諭が案内をした。松本城にはお城を守るための知恵や工夫があることに驚いた様子だった。
- ・4日目に高瀬ダムを見学。マイクロバスに乗りかえて約35分。高さ100m以上もある日本最大級のロックフィルダムを間近にながめ、かつ地下発電所の大きな発電機を見学した。毎日何気なく使っている電気につくられ方について学ぶことができた。この施設は予約等の事前調整が必要で、一般の観光客は多くはなく、貴重な体験となった。発電については、理科や社会科での学習との関連性があり、実際の授業で取り扱うようなときには、思い出されるだろう。

<生活体験活動><地域の人々とのふれあい>

1、そば打ち・ジャム作り体験

- ・公民館の体育館で、そば打ち体験を実施した。包丁でカットする際、太くなりがちだが、普段食べているものと何ら変わりがない。上出来だった。宿の方たちの計らいで、自分たちでつくったそばを夕食でもらった。同様に、ブルーベリージャムも作った。自宅用の瓶に詰めかえ持ち帰ることで、家庭でも体験学習の成果が披露できたのではないかな。



【そば打ち体験】

○生徒の感想

- ・5年生の時にもセカンドに行きましたが、その時とは友達もちがう。三中へ入学して約1ヶ月しかたっていなかったりして、自分の中では「ある意味挑戦かな」と思っていた。
- ・田植え体験では、裸足で足を入れて気分もいやされた（冷たかったけど・・・）セカンドスクールの間の5日間は、アツという間に過ぎてしまった。最終日前日の夜に、（みんなと過ごす最後の夜になるんだなあ）と思った時は、早く帰りたいという気持ちはなくなり、まだ帰りたくない、もっとみんなと過ごしたい、という気持ちでいっぱいだった。

○保護者の感想

- ・本校における学校評価アンケートの中で、セカンドスクールの実施に対して、肯定的な意見が91.3%を占めた。自然体験や集団生活について、おおむね良好な意見が出ていた。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・事前学習は総合的な学習の時間に、4月下旬から充当させている。例年、本校のセカンドスクール実施は5月中旬と比較的早いため、年度当初から学習プログラムを綿密に計画している。

○小学校セカンドスクールとの関連について

- ・小学校では長期間の日程をこなしているため、必要な荷物や常備薬に関しては、自己管理がおおむねできている様子。さらに、荷物の整理をきちんとできるように指導したい。中学校での各種体験学習には、小学校で経験できなかったものもあり、生徒にとっては「新鮮」に映ったようだった。

○次年度に向けての反省・課題

- ・本年度は、雨天日程が一日だけあった。入念な実地踏査を行なっていたものの、特に松本城訪問が日曜日とかさなり、一般観光客が多く混雑して、厳しい時程となった。今回の内容を次年度実施に向けたプログラム作りに反映させていく。

第四中学校

9月25日～9月29日(4泊5日)

○日程表

9月25日(金)		9月26日(土)		9月27日(日)	
7:30	市役所前	6:00	起床	6:00	起床
8:00	バス発	6:30	朝食準備		朝食
12:10	昼食	7:15	朝食		農業体験
14:10	うるぎ星の森着	8:15	周辺散策	12:00	お別れ式・昼食
15:30	夕食準備	12:00	昼食	13:20	稲刈り体験
17:00	夕食	12:45	うるぎ星の森発	17:30	旅館着
19:30	キャンプファイヤー		各農家へ移動	18:10	夕食
			対面式・農業体験		入浴
22:00	消灯		夕食・入浴	22:00	消灯
			(農家泊)		
		22:00	消灯(農家泊)		

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・ 個人新聞の作成
(内容) 東京から飯田市までの道のり
長野県や飯田市について
尖石遺跡について
飯田市の農業と農家の人々
米・稲作について
りんごの品種や栽培方法について
- ・ 農家への挨拶状・自己紹介カード作り
- ・ スローガン作り
- ・ 生活のきまり作成(服装、持ち物など)
- ・ レクリエーションについての企画・練習
- ・ キャンプファイヤーの出し物の企画・練習
- ・ 係会による係活動内容の確認



【稲刈り体験】

長野県飯田市

参加人数 男子67名 女子60名
計 127名

9月28日(月)		9月29日(火)	
6:00	起床	6:00	起床
7:00	朝食	7:00	朝食
8:00	旅館発	8:45	旅館発
8:40	風越山麓公園着	10:45	尖石縄文考古館着
9:00	登山開始	12:00	尖石縄文考古館発
11:30	虚空蔵山頂 休憩	12:20	昼食(おぎのや諏訪店)
13:00	風越山麓公園着 昼食	13:30	出発
15:50	旅館着	16:50	市役所駐車場着
18:00	夕食	17:00	解散
19:00	レクリエーション大会(～20:40)		
22:00	消灯		

② 事後の学習内容

- ・実行委員会作成のアンケートを実施しその結果をまとめ、学年集会で総括した。
- ・一人あたり農業体験を含む二つのテーマを選び事後学習新聞としてまとめ掲示し、クラスで発表した。
- ・しおりをまとめ、感想の作文を書いた。
- ・国語の時間にお世話になった農家へお礼の手紙を書いた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、風越山麓の虚空蔵山(こくぞうやま)登山

飯田市北西部の郊外にある標高 1,130mの虚空蔵山こくぞうやまに登った。数年前からこの山への登山となっており、山頂までの見晴らしポイントが少ないという難点もあるが、山道が広く、程よく険しいことから中学生に適切なコースである。山頂からは、南アルプスの山々や、飯田市内を流れる天竜川、そして河岸段丘を望むことができた。これらのことを踏まえ来年も虚空蔵山こくぞうやまでよいと考える。

インストラクターの方が登山途中や下山後、山道の石楼にまつわるお話や風越山麓の自然や野生動物のお話をしてくださった。地域の方々の自然を愛する思いや、人間と動物との共生に

ついて深く考えさせられ、生徒たちは熱心に話を聞いていた。

<学習体験活動>

1、尖石縄文考古館

5日目の帰路、諏訪にある尖石縄文考古館に立ち寄り、縄文時代の貴重な土偶（国宝「縄文のビーナス」）や磨製石器、その他の土器を見学し、社会科の学習として大変貴重な体験ができた。天候がとても悪く、屋外展示の竪穴式住居や、尖石等の見学ができなかったのが残念である。

<生活体験活動>

1、キャンプ体験

「うるぎ星の森オートキャンプ場」で行った。とても整備されており、一校での貸切、またキャンプ場の方々も丁寧に対応してくださり非常に良かった。

生徒たちは飯盒炊さん（カレーライス）、朝食（オープンサンド）の準備から食事、片付けまで行った。森の中のキャンプ場は自然に満ち溢れ、周囲を気にせずキャンプファイヤーも楽しむことが出来た。標高の高い山（1,100m）でのテント泊、本年度から秋の実施ということもあり、春以上に防寒についての事前の指導を徹底したこともあり、みな元気であった。2日目は周辺散策をしたり、テントの撤収をしたりと、ゆっくりとした時間を過ごした。少し疲れている生徒もいたのでよい休養になったと思う。自然の厳しさとその自然が見せる美しさの両面が体感できる有意義なキャンプ体験であった。

2、農家泊と農業体験

2日目の午後から3日目の昼食まで、4人程のグループになり、売木村と隣の阿南町の各農家へお世話になった。各農家は生徒の受け入れには慣れており、南信州観光公社が受け入れ先の調整をしてくれた。生徒たちは各々事前に農家へ自己紹介カードとご挨拶の手紙を書き、当日を迎えた。

農家では大変歓迎してくださり、子どもたちもその日のうちに、農家の方々とうちとけて、嬉しそうに農業体験をしていた。挨拶状送付時に、お世話になる農家ごとに写真と自己紹介カードを同封し、農家の方にも生徒の顔と名前が一致し、好評だった。

32軒の農家に分泊し、りんごの収穫、稲刈りとはざかけ、キノコ狩りなど、農家の仕事を体験できただけでなく、各家庭の温かいもてなしを受け、一様に大変満足して帰ってきた。ほとんどの生徒が事後作文でこのことを書いており、セカンドスクールで最も印象に残る思い出になったようだ。

また、3日目の午後には売木村の田んぼを使って稲刈り体験を行った。NPOのネットワークうるぎの方々を中心に指導をしていただき、全員での稲刈り体験をとった。

<地域の人々とのふれあい>

前述の通り、売木村で稲刈り体験を行った。村の人に教えていただきながら稲刈りを通して地域の方々と楽しく交流を持つことができた。

○生徒の感想

- ・キャンプ場での食事作りは、ふだん話さない男子とも協力して作ることができました。カレーはさらさらになってしまったけれど、とてもおいしくできました。
- ・一番楽しかったことは農業体験です。農業体験では、はざかけを中心に栗をとったり大根を抜いたりしました。日差しが暑かったですがとても楽しく充実した2日間でした。
- ・勉強になったことは稲刈り。せっかく農家の方が一生懸命作ってくれた稲をみんな踏んでしまったり、そまつにしてしまったら農家の人たちは傷つくなと思った。農家の方が作った農作物をもっと大事にしたいと思った。
- ・農家の人たちはとても優しく、お話を聞くときもリングを出してくれたり、とても私たちのことを考えて接してくださいました。

○保護者の感想

農家の方々との交流の思い出をたくさん聞かせてくれ、とても貴重な時間を過ごしたのだなと感じました。夜、寒い中でたくさんの星がきれいだったことや、レク大会が大変盛り上がり、友達とのふれあいもたくさんできたようでよかったですと感じました。

○総合的な学習の時間との関連について

1学年の総合的な学習の時間のテーマは「ともに生きる力をつける」である。自然や環境との共生も考えて学習を進めるにあたり、今回のセカンドスクールはその基礎となるものである。農業体験や自然体験を通して実体験したことが今後生かされていくことと思う。

○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校のプレセカンド、およびセカンドスクールを経験していることもあり、長期の宿泊の中で自然と触れあい、地域の方々との交流することは、ごく自然に興味を持って入っていきけると感じた。

○次年度に向けての反省・課題

自然との共生、人との共生、そして日常と違う生活体験を共にすることによって、協力することの大切さや仲間の良さを知る、という目的は達成できたと思う。事前から事後の活動まで実行委員を中心に、生徒一人一人が役割を分担し、積極的に取り組めるよう工夫してきたが、なかなか自分の役割を理解できず、主体的に取り組めるものばかりでなかった点は、これからの課題でもあり、学校生活の中で、より一層伸ばしていけるよう指導していきたい。

また、生徒の中で非常に印象が強かった農業体験では、昨年度までは春の実施であったため実りの収穫を体験できなかったが、秋実施になったことで、各農家それぞれの収穫作業、3日目の午後の全員での稲刈り体験と、慣れ親しんだ村の方々と一緒に楽しそうに活動していたので、来年度も売木村での体験活動を続けられればと思う。しかし、その実現には農家の協力が不可欠であり、本年度新たに課題も見つかったので、来年度以降の実施に向け努力していきたい。

第五中学校

9月25日～9月29日(4泊5日)

○日程表

9月25日(金)		9月26日(土)		9月27日(日)	
8:00	出発式・バス発車	8:30	農家体験へ出発	8:15	農家の方とのお別れ会
12:00	安曇野着	10:00	農作業体験	9:30	登山へ出発
13:00	稲刈り農作業体験		昼食づくり		光城山登山
	わさび漬けづくり体験	14:30	農作業体験	12:30	長峰山登山・スケッチ・下山
	安曇野散策	17:30	夕食づくり	19:30	キャンプファイアー
21:00	実行委員会・班長会・班会議	21:00	民泊	21:00	実行委員会・班長会・班会議

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間を利用し、各クラスの5つの班が、「安曇野周辺の地理」「歴史・生活・文化」「産業、とくに農業」「水」「北アルプスや安曇野の動植物と星座」などのテーマを分担し、さらにテーマを細分化した5～6の課題について、各自が調べ学習を行った。インターネットや書籍を利用して各自が新聞形式にまとめたものを冊子にして、各クラスで学習発表会を行った。
- ・社会科授業において、地形図の見方や長野県の地理について学習した。
- ・国語科授業において、体験でお世話になる各農家にあいさつの手紙を出すため、「手紙の書き方」を学習し、すべての生徒が農家宛の手紙を書いた。
- ・美術科の授業で安曇野ちひろ美術館の見学のため、生徒全員がちひろ作品を模写する活動を行った。

② 事後の学習内容

- ・生活班ごとに「稲刈り農作業体験」「わさび漬け体験」「安曇野周辺散策」「農家体験」「光城山・長峰山登山」「上高地オリエンテーリング」「安曇野ちひろ美術館」のテーマを一人ずつ担当し、しおりに記入してきた生活記録や写真を活用し、イラストも入れた報告書を作成した。
- ・セカンドスクール報告書をもとに、寸劇などを取り入れたポスターセッション形式の発表会を行った。
- ・お世話になった農家の方へ一人一人が思いを込めたお礼の手紙を書き、農家体験での写真と合わせて各農家へ送った。
- ・「セカンドスクールのしおり」に毎日の学習内容や体験内容、感想などをすべて記入して完成させた。

長野県安曇野市

参加人数 男子46名 女子39名
計85名

9月28日(月)		9月29日(火)	
8:00	宿舎発	8:30	宿舎発
9:45	上高地着 上高地オリエンテーリング	9:00	安曇野ちひろ美術館着、見学
15:00	上高地発	11:00	安曇野ちひろ美術館発
17:00	宿舎着	11:30	宿舎着
19:00	レクリエーション大会	13:00	閉校式
21:00	実行委員会・班長会・班会議	13:30	宿舎発
		16:30	学校着、解散式

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、宿舎周辺安曇野の散策

ビレッジ安曇野周辺の「憩いの池」(日本の名水100選)やわさび田遊歩道、わき水探索路、水田などをグループごとにまわりながら散策した。セカンドスクール初日に、宿舎の周辺の安曇野の原風景があることを実感することができた。

2、光城山・長峰山の登山

安曇野から見える北アルプスの代表的な山は常念岳である。その常念岳をはじめとする北アルプス連峰を一望できるのが光城山・長峰山である。宿舎から3時間ぐらいで登頂できる。特に、長峰山は、作家の井上靖、川端康成、画家の東山魁夷らが日本の原風景が残る安曇野と称した場所である。その頂上で北アルプスを眺めながらスケッチを行った。

3、上高地オリエンテーリング

事前に計画された約5時間のオリエンテーリングを行った。生徒は、チェックポイントを通過し、いくつかの課題をこなしながらオリエンテーリングを楽しんだ。当日は天候にも恵まれ、ちょうど紅葉の見頃にもあたり、生徒は雄大な北アルプス穂高連峰を眺めながら自然体験を行った。

＜学習体験活動＞

1、稲刈り体験

今年度、はじめて実施した稲刈り体験である。はじめに、JA安曇野の農業指導員の方から長野県の農業や稲刈りについてレクチャーを受けた。その後、宿舎に隣接した田んぼで班ごとに稲刈りを行った。班ごとに一人の農業指導員（農家）の方についていただき稲刈り指導をしていただいた。生徒は手で稲を刈る手狩りという作業を行った。はじめて持つ鎌の切れ味に驚いていた。稲を刈り、束ね、それを干すという単純な行程であるが生徒は黙々と作業を続けていった。班ごとに農業指導員の講師の方から、お米を育てる苦労話を聞きながら夢中になって行った。黄金色に輝いた稲穂がみえるうちに刈り上げられ達成感のある活動だった。



【農作業体験の様子】

2、農家体験(野菜や米の収穫・農家の諸作業など)

4～5名が15農家に分かれて様々な体験を行った。コンバインによる稲刈りや、さつまいも、枝豆、トマト、とうもろこしなどそれぞれの農家ならではの作物を収穫したり、米の袋詰め作業やスタンプ押しなど、出荷に関わる作業を体験したりした。とりわけ、自分たちが収穫した作物を調理して食べる体験では、都会ではできない感動をおぼえた生徒も多かった。「何かいいこと一つ」生徒たちはお世話になった農家の方々に、自分たちで考えたお礼の活動を行った。



【農作業体験の様子】

3、安曇野ちひろ美術館

安曇野は多くの芸術家たちの美術館がある街である。安曇野ちひろ美術館もその一つである。事前にちひろ作品を模写する学習を行っていたため、本物のいわさきちひろ作品を興味深く鑑賞することができた。当日は学芸員の方からいわさきちひろ作品について、レクチャーを受けた。

○生徒の感想

私がセカンドスクールで一番心に残ったこと。それは、上高地オリエンテーリング。なぜならセカンドスクールの目標「自然」「友情」「学び」を達成できたと思うからだ。「自然を感じる」上高地ハイキングでは、多くの自然を、目で、手で、肌で感じた。すばらしい自然を見る中で、自然の偉大さを感じた。そして、自然の大切さを知り、守っていかなくてはいけないと思った。ゴミのポイ捨てをしたり、植物をむやみに取ったり……。これは絶対にしてはいけないことだと思う。「協力し合って絆を深めろ」前日の登山では、班行動がうまくいかなかった。しかし、上高地では、班行動



【長峰山頂での昼食風景】

をしっかりとできた。足が痛いと言っている人にペースを合わせたり、みんなでアタックチャンス
を解いたり、みんなで話したり、班のみんなと一気に仲良くなれたような気がした。「互いの知
らないところを学べ」互いとは、友達、また自然であると思う。私が学んだこと。それは、友達
の大切さと自然のすばらしさ。オリエンテーリングは、とてもつらく、一人では達成できなかつ
たと思う。でもそんなとき、班のみんながはげましてくれたからこそ、達成できたのだ。また、
ハイキングで私はありとあらゆる自然に出会った。澄んだ空気、美しい水の流れ、色とりどりの
葉。全て美しく、全てに感動した。私はこの上高地オリエンテーリングで、セカンドスクールの
目標を達成できたと同時に、たくさんのことを学び、一歩大人になった気がする。

○保護者の感想

事後のセカンドスクール報告会での保護者の感想です。稲刈り体験で、大勢の農業指導員の方
から丁寧な指導を受けている様子がよくわかりました。天候に恵まれ、安曇野の原風景を満喫し
たようです。農家体験では、本当に孫や息子のように関わっていただいて本当によかったと言っ
ていました。お礼の手紙を長い時間かけて作成したようで、お母さんが涙を流して喜んでくれた
ことに感激したと言っていました。

○総合的な学習の時間との関連について

年間指導計画において、1・2学期の総合的な学習の時間の中心をセカンドスクールに向けた事
前・事後学習等に充てた。インターネット等を使った事前学習の内容は、新聞形式の冊子にまと
め発表会を行った。また、事後学習では、自分たちの経験をもとに報告書を作成し、その報告書
をもとに発表会を行った。特に、発表会では班ごとに工夫を凝らした寸劇を取り入れ、プレゼン
テーション能力を高める取り組みを行った。

○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校セカンドスクールの詳細について考慮した上で立案しているわけではないので、関連性
を深めていくことは今後の課題であると思う。

○次年度に向けての反省・課題

- ・上高地は安曇野から2時間近くかかる体験場所である。往復の時間を考えるともっと安曇野
周辺で活動場所がないか検討が必要である。
- ・光城山・長峰山の登山までのアプローチまで、徒歩で1時間かかり輸送手段の検討が必要で
ある。
- ・現在、農家体験の宿泊数を1泊から数泊に増やすことを課題としている。
- ・今年度、南安曇野農業高校との連携を検討したが日程的な課題があり、今後とも継続的に検
討を行っていきたい。

第六中学校

9月9日～9月13日(4泊5日)

○日程表

9月9日(水)		9月10日(木)		9月11日(金)	
7:30	駅南側 洋服の青山前集合	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:20	宿舎到着 開校式	8:40	出発	8:15	出発
12:30	昼食	9:00	稲刈り体験	10:45	上高地ハイキング
13:00	オリエンテーリング	12:30	昼食	11:45	河童橋休憩
19:00	夕食	14:00	わさび掘り体験	12:45	明神橋 昼食
20:00	農作業体験講義		わさび漬け体験	15:00	上高地バスターミナル出発
21:30	部屋班・行動班係会議		キャンプファイヤー準備	17:20	ビレッジ到着
22:30	消灯	17:30	夕食	19:00	夕食
		18:20	キャンプファイヤー	21:30	部屋班・行動班係会議
		21:30	部屋班・行動班係会議	22:30	消灯
		22:30	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・実行委員会組織作り
- ・実行委員による概要説明
目標、スローガン、日程、毎日のテーマ
安曇野市、農作業体験、上高地、民泊について
- ・決まりの討議、決定
- ・部屋班、行動班、民泊班、バス座席決定
- ・係会議
- ・民泊先農家の方々へ自己紹介カード作り
- ・長野県、安曇野市、上高地の「地域・自然・産業」について調べ学習(レポート作り)



【稲刈り体験の様子】

② 事後の学習内容

- ・反省アンケートの実施・集計、実行委員会による学年集会での総括
- ・感想文を書く
- ・民泊農家の方々への礼状を作成

長野県安曇野市

参加人数 男子44名 女子49名
計93名

9月12日（土）		9月13日（日）	
6:30	起床	8:00	集合
7:00	朝食		閉校式
9:00	民泊対面式	8:30	朝食
9:30	各農家へ	9:30	スケッチ
	安曇野生活体験	12:00	昼食
	昼食作り	13:00	宿舎発
	安曇野生活体験	17:00	駅南口 洋服の青山前到着
	夕食作り		
	民泊先の方々との交流		
	民泊		

- ・民泊新聞作成と体験発表（民泊で学習したこと、体験したことを民泊班ごとに新聞にまとめ、3月の学習発表会でお世話になった宿舎・農家を招待し、民泊体験発表を行う。）
- ・調べ学習個人レポート作成（セカンドスクールでの体験を通して、「地域・自然・産業」について各自でテーマを設定し、調べ学習・レポートにまとめ・発表をする。）

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、上高地ハイキング

大正池から河童橋まではクラスごとに行動し、河童橋から右岸コースと左岸コースに分かれて、班ごとに明神橋まで行動した。大正池から河童橋までクラスごとに行動したため、大きな時間差ができることなく、明神橋にはどの班も予定通りに着くことができた。明神橋での昼食後、行きとは逆のコースを通って、班ごとに河童橋まで戻った。班長を中心に、それぞれの班内での係の役割も果たしながら、計画通りに行動できた。天候も良く暖かい気候の中、大自然を満喫し、多くの生徒が自然の壮大さに感動を覚えた。

＜学習体験活動＞

1、農作業体験講義

1日目の夜に、JAあずみのの職員の方、わさび農家の方を直接招き、翌日の体験学習である稲やわさびの栽培や収穫方法などについて講義をしていただいた。稲作に関する講義では、田植えをしてから出荷するまでの工程や、そのときに使う機材や器具などJAが製作したパンフレットをもとに詳しく説明していただいた。わさびに関する講義では、わさび作りに適した気候や栽培法など、簡潔にわかりやすく説明していただいた。どの生徒もメモを取りながら、興味深く真剣に講義を聴いていた。今まで知らなかった農作業の内容を理解した上で、2日目の体験活動に臨めるため、農業・作物に対しての意識が変わった生徒が多くいたようである。

2、稲刈り体験

宿舎から歩いて5分程度の田んぼへ行き、開校式の後、生徒は5ペア・9グループに分かれ、それぞれのグループに地元農家の方1、2名が指導にあたり、鎌の使い方・稲の刈り方・束ね方などの指導を受けた。刈っていくごとにコツを掴み、生徒たちは刈り・束ねを積極的に行っていた。担当区域の稲をどのグループも協力しながら刈ることができた。最後に束ねた稲を「はざかけ」という昔ながらの方法で天日干しした。

生徒たちは一生懸命稲刈りに取り組むことによって、作物をつくるには大変な苦勞と根気のいる作業が必要であるということを実感し、改めて、農家の方の大変さを感じたようである。また、体験の最後には地元農家の方々が用意してくださったりんごを食べ、どの生徒もそのおいしさに感動していた。体験中には蛙やトンボ、バッタなどの虫も多く現れ、無邪気に遊ぶ生徒も多く、自然の生き物に触れる良い機会でもあった。

3、わさび掘り・わさび漬体験

クラスごとでわさび掘り・わさび漬の体験を行った。生徒は裸足でわさび田に入り、想像以上の湧き水の冷たさに声を上げながら、湧き水の綺麗さにも驚いていた。初めて見るわさびにみな興味を抱き、わさびの茎をそのままかじってみたりと貴重な体験となった。

わさび漬体験は、わさび漬自体初めて知ったという生徒も多かったが、自分の手で特産品を作るということで、完成を楽しみに活動していた。地域の特産品であるわさびを使い、加工品を作ったことで、地域産業に触れる良い体験となった。

＜生活体験活動＞

1、民泊・安曇野生活体験

あいにくの悪天候になってしまい、何ヶ月も前から準備していただいた活動内容が十分にはできなかったものの、その中でも各農家の方々ができる限りの体験を考えてくださった。そのお陰で今年も、野菜の収穫・芋掘り・ひまわりの種収穫・障子貼り・お饅頭作り・米袋のラベル貼りやスタンプ押しなど、多岐にわたる体験活動を行うことができた。1泊だけではあるが、生徒たちに家族の一員として接していただき、生徒たちもその気持ちを深く受け止めていた。また、農家の方々と接する中で、貴重なお話をいただいたりと、この民泊体験は多くの生徒たちにとって、一番心に残る体験となったようである。

○生徒の感想

- ・わさび田には普通の人は入れてもらえないのに、わさび掘りをさせていただいたのでとても嬉しかった。
- ・普段やらない農作業をやって苦勞した。でも、蒔いた種はどんな風になるのか楽しみです。
- ・小学校とは違い、すべて自分たちで行動するので大変でした。
- ・これからはお米や野菜を食べるときは、育ててくれた人々に感謝して、残さないで綺麗に食べるようにしたいです。
- ・いつもは知ることのできない人々の生活があることを知り、とても新鮮に感じることができました。地方で農業や様々な仕事をして生活している人によって、多くの人達の生活が成り立っているのだと感じました。

○保護者の感想

- ・帰って来たときには、農作業や民泊でのことを楽しそうに生き活きと話してくれました。
- ・食べたお米のおいしさや、上高地の大自然など、普段とは違う良い経験ができたようです。

○総合的な学習の時間との関連について

年間計画の中で、セカンドスクールへの取り組みを中心に位置づけている。1学期は、長野県、安曇野市、上高地の「地域・自然・産業」について調べ学習を行い、レポートを作成した。2学期はセカンドスクールでの体験を基に地域は限定せずに範囲を広げ、各自でテーマを設定し、1学期と同様にレポートにまとめた。また、民泊での体験を民泊班ごとに新聞にまとめ、3学期の学習発表会で発表会を行った。

○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校での経験もあり、地域の中に自然と入ることができている。体験内容では小学校と重複する内容もあるが、体験しているからこそ、理解が深まり中学生として感じることもあると考える。しかし、他にも適した体験活動がないか検討していくことは大切である。

○次年度に向けての反省・課題

毎日テーマを掲げることで、生徒は意識を持って活動に取り組んでいたと思う。また、1日目に農作業体験講義を受けることで、2日目の活動ではより意識を持って取り組むことができていたようである。また、上高地での班行動の範囲を調整したため、時間通りに進めることができた。課題としては、①二日目のわさび掘り・わさび漬けでマイクロバスでの移動時間を考慮した活動時間の確保 ②上高地で時間通りには行動できたが、さらにゆっくりと自然を観賞する時間の確保 ③キャンプファイヤーでの出し物の検討があげられる。